

TOPIC <

会員用HPの活用方法

- 特別区全国連携プロジェクトでは、「会員登録」を行った自治体が利用できる「会員専用ホームページ」(利用料無料)があります。
- 「会員専用ホームページ」は、“掲示板”の形式で、各自治体の皆様と東京23区が書き込みを行うことで、連携・交流に関する情報を交換することができます。

<活用事例>

- ▶東京23区等に対し、新たな連携・交流事業を提案したいとき
- ▶東京23区等が実施しているイベントや事業に参加したいとき
- ▶自治体の施策や事業を広く周知したいとき
- ▶自治体のパンフレットを東京23区等で配布したいとき・自治体の広報誌や広報動画をPRしたいとき など



全国連携HP

- 現在、332の自治体・団体に「会員登録」をしていただいております。会員登録自治体との意見交換や、公式X(旧Twitter)で会員登録自治体の事業を発信・紹介する等の取組みも積極的に行っています。
- 東京23区との連携・交流事業の実現に向けて、ぜひ「会員登録」について、ご検討ください。

TOPIC <

～被災自治体への23区連携対応～
「令和6年能登半島地震」に係る
被災自治体への支援

特別区は、令和6年能登半島地震で被害に見舞われた自治体に対して、友好都市協定等に基づく各区個別での支援に加え、被災者の状況を鑑みて、関係機関と連携し最大限の支援をしていくことを申し合わせ、23区共同で支援に取り組んでいます。

<職員派遣>

業務内容	派遣先	延べ派遣数 (予定を含む)
避難所における住民の健康管理・衛生管理等業務等	石川県 金沢市	66
ごみの収集・運搬等	石川県 七尾市	42
罹災証明書発行の受付等業務	石川県 輪島市	28
住家被害認定業務における全壊判定業務 (石川県輪島市分をリモートで対応)	東京都庁	14
公費解体等に係る受付、委託発注業務等	石川県 志賀町	5
被災宅地危険度判定業務	石川県 内灘町	3

※令和6年3月15日現在

【復興支援金の提供】

特別区では、特に大きな被害が確認された地域に対し、復興支援金を提供しており、今後被災状況があきらかになり次第、対応します。

特別区全国連携プロジェクト
公式X(旧Twitter)
@Zenkoku_Renkei

プロジェクトのイベント情報を発信するほか、連携している市町村のイベント情報なども発信します。

よろしければ、**フォロー**をお願いします!



特別区全国連携プロジェクト【ホームページ】
<https://collabo.tokyo-23city.or.jp/>
最新情報やイベント情報などを随時更新!

パソコン・スマートフォン・タブレットからご覧いただけます

全国連携 Q検索



登録自治体の皆さまへ

日頃より特別区全国連携プロジェクトの推進にご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。特別区全国連携プロジェクトはこれまで300を超える自治体の皆さまに登録をいただいております。会員用HPを効果的にご活用いただくために、担当者や担当部署、アドレス等に変更が生じた場合は登録情報の修正にご協力いただきますようお願いいたします。

特別区全国連携プロジェクトの事業実施にあたっては、特別区長会と公益財団法人特別区協議会が連携して取り組んでいます。

お問い合わせ

特別区全国連携プロジェクトに関するお問い合わせ
03-5210-9747

特別区長会事務局 調査第1課 全国連携プロジェクト担当

特別区全国連携プロジェクトの会員登録に関するお問い合わせ
03-5210-9080

公益財団法人特別区協議会 事業部事業推進課

東京23区

TOKYO 23 CITY

全国連携NEWS

日本を元気に!
23区から全国へ
全国から23区へ



特別区
全国連携プロジェクトとは?

東京を含む全国各地域がともに発展・成長し、共存共栄を図ることを目的に、産業、観光、文化、スポーツなど様々な分野で特別区(東京23区)と全国各地域が連携・交流事業を行う取り組みとして、平成26年9月に特別区長会が立ち上げたプロジェクトです。

vol. 9

発行・編集：特別区長会・公益財団法人特別区協議会
発行：令和6年3月29日

このNEWSは、東京23区が取り組む「特別区全国連携プロジェクト」を全国の多くの方々に知っていただくためのPR情報紙です。本紙は、次のHPからもご覧いただけます。
特別区全国連携プロジェクトHP <https://collabo.tokyo-23city.or.jp/>
特別区長会HP <https://www.tokyo23city-kuchokai.jp/>
(特別区長会とは、東京23区間の連携を図り、特別区政の円滑な運営と特別区の自治の発展に資するため、昭和22年5月1日に設立された特別区23区長が組織する任意団体です。)

災害援助のプラットフォームとしての 全国連携プロジェクトへ

能登半島地震で被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

さて、令和5年度全国連携講演会(全2回)は、関東大震災から100年の節目でもあることから、自治体間連携による災害援助をテーマにオンライン開催されました。

第1回(令和5年8月28日)は「被災地支援を通じた全国連携」をテーマに、私からは「全国連携の原点としての災害援助とこれから」と題して、巨大な自然災害発生時の援助体制で遠隔連携が果たす役割が重要性を増してきたことや遠隔連携による災害援助の熟度を高めるために何が必要かなどを基調講演でお話ししました。パネルディスカッションでは、東日本大震災の被災自治体の職員(福島県富岡町、宮城県気仙沼市)と特別区からの派遣職員(新宿区、江戸川区)の4名の方々に、それぞれの立場から遠隔連携による支援・受援をめぐる課題について語っていただきました。

第2回(令和6年1月30日)は「全国連携で広がる支援の輪～文化・歴史の絆が繋ぐ熊本の災害復興～」をテーマに、私から「災害援助のプラットフォームとしての全国連携」について、普段着、

の交流を通じて支援・受援の実効性を高めることの重要性について基調講演でお話ししました。事例紹介では、熊本地震発生半年ほど前に交わされた「文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書」(新宿区・文京区・熊本県・熊本市)の関係4自治体の職員の方々から、災害援助時に「顔が見える」関係があらかじめ構築されていたことの意義などを語っていただきました。

企画時点ではまさか甚大な震災被害が再び生じることなど知る由もありませんでした。あらためて自然災害の脅威に対する備えの大切さを痛感させられるとともに、プラットフォームとしての全国連携を通じた災害援助の支援・受援体制の充実をさらに期待したい次第です。



東京都立大学法学部教授 大杉 寛



※講演会の詳細はHPへ

令和5年は、大正12(1923)年に発生し、近代日本の首都圏に未曾有の被害をもたらした関東大震災から100年
 害のみならず、近年多発する台風災害、大規模水害なども激甚化しており、災害対策は喫緊の課題となっています。

の節目にあたります。我が国では、首都直下地震や南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の地震災
 そで、今年度は「災害対策」をテーマとして全国連携展示・講演会を行いました。

第1回 全国連携講演会 「被災地支援を通じた全国連携」

参加人数：153名

令和5年8月28日(月) 14時～16時40分

第1部：基調講演

東京都立大学法学部教授 大杉 寛氏から「全国連携の原点としての災害援助とこれから」をテーマに講演をいただきました。

はじめに、特別区が進める遠隔連携（全国連携など）による災害援助の拡充について、災害援助の具体例や災害援助体制についてお話しいただきました。更に、遠隔連携による災害援助の熟度を高めるために、受援計画の重要性や「共在」（離れていても共に在るという感覚）を基礎にした災害援助のこれからなどについてもお話しいただきました。



基調講演の様子

第2部：パネルディスカッション

コーディネーター 東京都立大学法学部教授 大杉 寛 氏

「東日本大震災発生時の支援と復興」をテーマとし、はじめに、派遣職員を受け入れた被災自治体職員2名、次に被災自治体へ派遣経験のある特別区職員2名から受け入れ・派遣時の経験を発表していただきました。その後、各パネリストの発表を受け、更なる復興についての課題や、東京が被災地になることを想定した全国連携のあり方についての議論などが行なわれました。



パネルディスカッションの様子

パネリスト

東日本大震災の被災自治体職員

福島県富岡町 都市整備課長 大森 研一 氏
 宮城県気仙沼市 総務部人事課長 藤村 克郎 氏

被災自治体へ派遣経験のある特別区職員

新宿区 地域振興部角筈特別出張所主査 岡崎 博司 氏
 江戸川区 子ども家庭部子育て支援課推進係長 岩生 裕治 氏

被災時の状況、職員派遣等の支援受け入れの際のエピソード、
 受入前・受入中・受入後の意識の変化、復興の状況、課題 など

派遣された現地での業務内容や気付いたこと、派遣期間中の
 エピソード、派遣前・派遣中・派遣後の意識の変化、課題 など

EVENT 東京23区から全国の魅力を再発見!

「令和5年度 全国連携プロジェクト魅力発信イベント」

開催場所：大井競馬場 G-FRONT前 開催日時：令和5年12月26日(火)・27日(水) 14時～21時

特別区全国連携プロジェクトの一環として、大井競馬場G-FRONT前で「令和5年度魅力発信イベント」のブース出展を行いました。

ブースでは、パネルで本プロジェクトの取り組みを紹介したほか、広域連携協定締結団体のパンフレットを配架し、2日間で約500名の方に来場いただきました。



ブース出展の様子



ブース内の様子

EVENT 第2回 全国連携展示（災害対策）

「全国連携で広がる支援の輪～文化・歴史の絆が繋ぐ熊本の災害復興～」

開催日時：令和6年1月10日(水)～2月27日(火)

災害対策をテーマに、区政会館で展示を開催しました。
 第2回全国連携展示では、「文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書」の締結をきっかけに、迅速な支援を行うに至った経緯などをパネルで展示しました。また、熊本城をはじめとする復興の現状について、多くの写真を用いて紹介しました。さらに熊本県営業部長兼しあわせ部長のくまモンのパネルや、熊本県のご協力により新宿区、文京区への支援のお礼である「竹あかり」を移設し、展示しました。展示初日には、くまモンを招いて竹あかりの点灯セレモニーを行いました。



竹あかり点灯セレモニーの様子
 ©2010 熊本県くまモン



展示の様子
 ©2010 熊本県くまモン #K36187

(竹あかりとは?)
 社会問題化している放置竹林の竹を切り出し、穴をあけ、LEDなどによりあかりを灯したものです。空間演出やまちづくりなどに活用されています。
 ※竹あかり®：CHIKAKENの登録商標